
プリキュアキャラで天然中

朝比奈誓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアキャラで天然中

【Nコード】

N4394Y

【作者名】

朝比奈誓

【あらすじ】

プリキュアキャラから10人が天然中に挑むww

* 多分3 - 4回で終わる

* グダグダ

* 逃走中もどき

* フジテレビからの〜！のアレ。

オープニング

アナウンス「只今より、逃走中の予選を行います」

いつき「いよいよだ…」

奏「材料費のために…」

うすら「うーん…自信ないです…」

咲「絶対に逃げ切ってやる…！」

くるみ「少なくともこのぞみには負けないんだから…」

とある駅の前に集められた、10人の逃走者達。これから、逃走中の予選が始まる……と思い込んでいる。

なぎさ「絶対がんばるよ！」

のぞみ「ハンター…怖いよ…」

美希「でも本選出たい…！」

祈里「大丈夫って、私、信じてる」

せつな「……………」

アナウンス「この予選は20分間、駅周辺（東京ドーム2個分）。賞金単価は一秒300円。逃走成功できれば、本選の出場権と賞金

36万円を獲得できます。但し、自主はできません」

いつき「自主できないの!？」

くるみ「賞金36万……」

なぎさ「魅力的だよね」

逃走者達は賞金に浮かれている。だが、このゲームは賞金など出ない。本選もない。

アナウンス「また、初期ハンターは3体です」

せつな「この人数だから…多いのかしら……?」

実際はハンターは1体もない。

アナウンス「ではみなさん、あと一分でハンターが放出され、このゲームを開始します。好きな場所から開始をお待ち下さい」

祈里「ハンター……こ…怖いよ」

美希「一分…どこが隠れるのにいいかしら……?」

のぞみ「とりあえず移動しなきゃ!」

これは、逃走中の予選を行うという設定で集められた10人の動きを観察し、誰が最初に賞金がなくハンターもいないこのゲームの本当のルールに気づくかを観察するというなんともグダグダなゲーム

である！！
それが、天然中！！！！

オープニング（後書き）

逃走者

いつき

うらら

奏

咲

くるみ

なぎさ

のぞみ

美希

祈里

せつな

速攻第一ミッションですから！

くるみ「街中だから隠れにくいわね……」

早くも隠れ場所を探す、くるみ……

くるみ「何処がいいかしら……？」

咲「これってミッションとかもあるのかな……？つて、ハンター来た！？」

一目散に逃げる咲……

咲「撒いた……かな？あ、せつなさんだ」

東せつなを見つけたようだ……

咲「せつなー」

せつな「あ、咲！息切れてるけどどうしたの？」

咲「ハンターに追われてさ……なんとか撒いたけど」

せつな「まだ開始5分もたっていないのに……大変ね」

ハンターではなく実際はただ駅に向かって走っていたサラリーマンだったのだが、今の彼女達には知る由もない……

一方、本部では……

月村サトシ（以下、月村）「今回は『天然中』だが、何かミッションがあつた方がリアルだな……どうせなら普通じゃやれないものを」

月村は機会をおもむろに操作し、参加者たちに第一ミッションを送った……！

なぎさ「ハンター来ませんように……あ！」

ブルルルル。メールだ……

なぎさ「メール……しかもミッション来たッ」

うらら「第一ミッション……って、これは……！」

祈里「そ……そんなあ！行きたくない……」

いつき「こっ……これはキツイよ」

奏「……どう反応すればいいのか」

速攻第一ミッションですから！（後書き）

次回、第一ミッションの驚愕の内容が明かされる！

月村は一人でゲームを操作しているってことで。出したの失敗だったかな……

とりあえず安いものにしてしましょ
うよ（前書き）

今日中に次回も投稿しちみたい

とりあえず安いものにしましょうよ

なぎさ「自腹でケーキを買ってこい！…って、ぶっちゃけありえない！！」

のぞみ「…出来なければハンター放出！？」

第一ミッション・ケーキを購入せよ！

君達の逃走エリアには、三軒のケーキ屋がある。

異なるケーキ屋のホールケーキ（味や種類、大きさは問わない）を逃走者全体で3つ購入し、本部へ届ける。

3つ届けられなかった場合、届けられなかったケーキの数×2のハンターが放出される！

くるみ「行かない！行きたくない！自腹とか嫌！」

うらら「でも3つ届けられないと6体のハンターが放出されるんですよね……」

美希「うつ…自腹…誰が行って……」

せつな「行くしかなさそうね……」

奏「とりあえずケーキ屋を探さないと……」

ミッションに行くか行かないかは逃走者次第だ……

ケーキを分けてくださいな（前書き）

久々の更新。

ケーキを分けてくださいな

祈里「うーん、ミッション皆さん行くのかな…？よし、誰かに連絡してみよう！」

プルルルル。

美希「電話！着信音ホントデカくて困る…あ、ブッキー？」

祈里「tell？『あの…単刀直入に聞くけど……ミッション、行く？』」

美希「行きたくないわよ、自腹なんて」

祈里「tell？『そうだね…ありがとう美希ちゃん！』」

祈里は電話を切った。

美希「あんなもん、行く人いるのかしら…？？」

うらら「でもこれは行くしかないですよね！」

美希とは違う、春日野うらら……

うらら「まずはケーキ屋さんを探しましょう！」

咲「うーん…どうしよう。あ、なぎさ！」

なぎさ「あ、咲！」

日向咲、美墨なぎさと合流…

咲「ねえ…ミッション行く？」

なぎさ「行きたいけど高そうだし…あ、咲、割り勘する！？」

咲「それ賛成！よし、ケーキ屋探そう！」

この二人も、ミッションに向かうようだ…

うらら「ありました！」

ケーキ屋を見つけたうらら…

店員「いらっしやませー」

うらら「パティスリーサトウ！よし、ケーキケーキ…」

店員「ケーキをお探しですか？」

うらら「あ、はい。小さくていいのでホール、安いのをお願いします！」

店員「ええと、当店で一番お安いのは…1700円のショートケーキ4号となります。宜しいですか？」

うらら「お願いします！」

うらら、一人でケーキ購入……

店員「ありがとうございましたー」

うらら「さあ、ハンターに見つからない内に！」

うらら、スタート地点へと向かう！

世の中良い人間もいるもののねbyくるみ（前書き）

書き忘れてましたが、ミッションは残り18分で発動し、残り10分で終わります。

世の中良い人間もいるものなのねbyくるみ

残り時間、 15:27。

くるみ「あれはうらら…ケーキ買ったの!？」

物陰に隠れていたくるみ、偶然にも丁度ケーキ屋から出てきたうららを目撃。

くるみ「仕方ないわね…一斉送信!」

いつき「くるみからメール…?えーと何々？」

奏「『うららがパティスリー・サトウでケーキ購入』…うららさん、ミッション行っているのね…私も行こうかしら」

せつな「成る程…あ、あれはケーキ屋!？」

奇遇にもケーキ屋の近くにいた、東せつな……

せつな「>町のケーキ屋 ヴィクトリア<…行くしか無いわね」

どうやらケーキを購入するようだ!

残り時間、 14:52…

うすら「本部、着いた！」

逃走中スタッフ「あ、ミSSIONのケーキですね」

うすら「はい！」

せつな「また…『春日野うすらの活躍によりケーキがひとつ届けられた』やったわ！このまま私も…」

せつな、一人でケーキを購入…

せつな「精一杯頑張ると決めたもの！」

駅前の本部へと向かう！

のぞみ「うすら凄いなあ〜！あつ、あれはケーキ屋だ！えと…>町のケーキ屋 ヴィクトリア<かあ」

のぞみが見つけたのは、先程せつながケーキを購入した店、ヴィクトリアだ…！！しかも彼女はせつなが購入した事を知らない…！！

のぞみ「買っちゃおうかな〜」

同じ店のケーキは認められない。どうなる、せつな・のぞみ！

世の中良い人間もいるものなのねbyくるみ（後書き）

うらががケーキを一つ届けた。

参加者、ミッシェンクリアとなるか！？

そしてのぞみの運命は！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4394y/>

プリキュアキャラで天然中

2011年12月1日23時00分発行